

セルクル・きほく

～紀北支援だより～



和歌山県立紀北支援学校
教育支援部
No.5 H.30年9月

※セルクルとはフランス語で「輪」を意味します。学校や地域とのつながりが大きな輪となり連携していくようにという願いをこめています

～セルクル・きほく学習会を

開催しました！～

夏休み中の8月7日、本校主催の学習会「セルクル・きほく学習会」を開催しました。この学習会は今年度から始まった新しい取り組みです。地域の小・中学校の特別支援学級担任・コーディネーターの先生方、高等学校の先生方、また、和歌山県教育委員会・海南市教育委員会指導主事等、29名のご参加を頂きました。

第1回目となる今回のセルクル・きほく学習会のテーマは「自立活動の指導」。前半は自立活動・基本編として、本校自立活動部長より「なぜからはじまる自立活動」というテーマで、自立活動の基本的な内容や指導のプロセス、実践事例について講義を行いました。後半は自立活動・実践編として、事例について個別の指導計画を作成するグループワークを行いました。

学習会の内容等を一部紹介します。

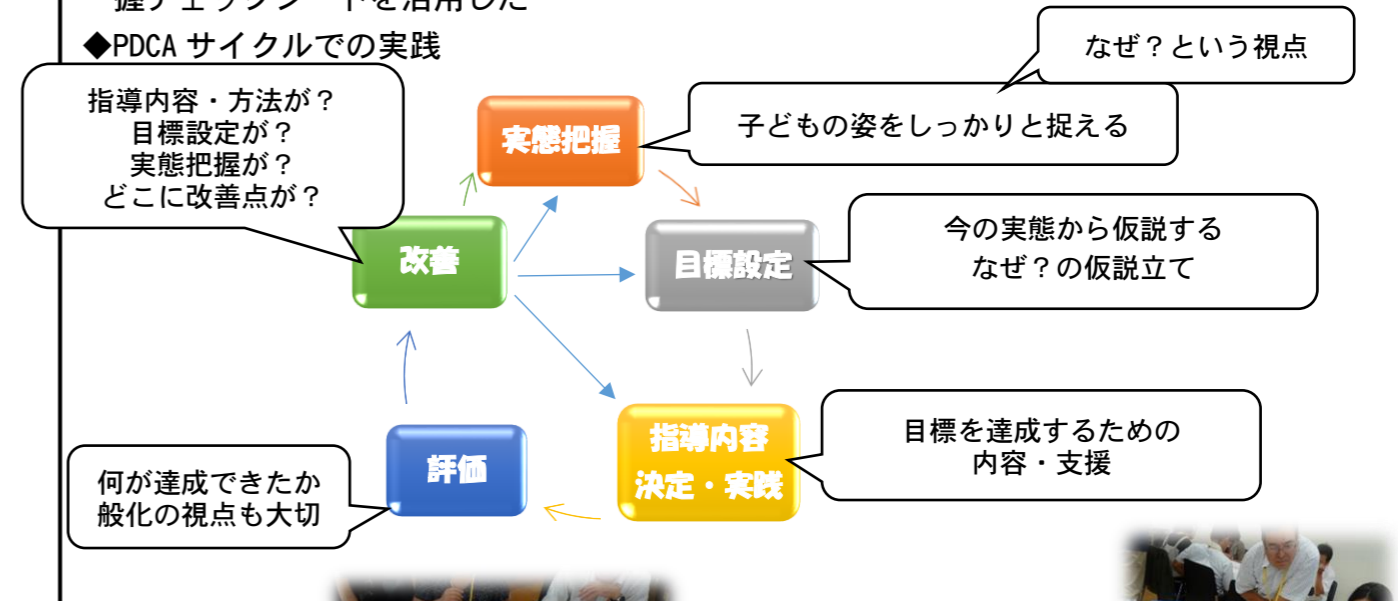
【自立活動・基本編】

- ◆自立活動とは…子どもが日常生活や学習場面で困っていること（障害特性等に起因する）を改善・克服するための学習である！
- ◆自立活動の内容を大別すると
 - ①人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素
 - ②障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な要素
- ◆「なぜ？」からはじまる自立活動
 たくさんの「なんでかなあ？」から色々な気づき生まれる
 自立活動のスタートは教材や活動からではない→「実態把握」から！！
- ◆「なぜ？」が違えば「支援」が違う
 * 集団に入れない→何をしたらいいのかわからないから？
 ざわざわした雰囲気や声が苦手だから？
 活動の手順がわからないから？
- ◆自立活動の指導 6区分26項目 → 6区分27項目へ
- ◆自立活動の指導形態
 個々の実態に対応した指導なので個別指導が前提だが、学習効果が上がると考えられる場合には集団を構成して指導することもある
 →しかし…「最初から集団で指導することを前提としないこと」に留意する

実態が違えば
目標も手立ても
変わってくる

【自立活動・実践編 「個別の指導計画を作ってみよう（実態把握を中心に）」

- ◆本校の自立活動の個別の指導計画の様式を使って、事例について指導計画を作るグループワークを実施
- ◆事例の情報を自立活動の指導の6区分に即して整理し、指導目標を抽出して関連する区分と項目を選定するという作業を行った（時間があるグループは指導内容の作成まで進む）
- ◆実態把握については、提供された情報、学習指導要領解説・自立活動編、本校の実態把握チェックシートを活用した
- ◆PDCA サイクルでの実践



【アンケートから】

- * 今まで教材選びから入っていた。実態把握から入ることが大切だとわかりました。
- * なぜこのような行動を取るのかを考えることって大事ですね。1つの教材でも見方・考え方を変えるだけで目標が変わることも学びました。
- * 実態から分類する作業、大変でした。実態をよく把握して目標を立てる大切さを感じました。
- * PDCA サイクルの話が強く印象に残りました。
- * 他の先生方と話し合いしながらできたのが良かった

2学期がはじまりましたね
相談ニーズがあればこちらへ

<ご相談は…>

紀北支援学校 教育支援部

TEL 073-479-1356

相談メール

kihoku-shien@wakayama-c.ed.jp

